



明治41年白石尋常高等小学校の卒業写真

善俗堂誕生

士族としての誇りを捨てきれなかった旧仙台藩白石の人々は、どんな環境にあっても子供たちの教育を忘れることはなかった。明治5年3月に土地割り当ての右28番地（佐藤孝郷）と29番地（小関新次）の間に学問所を開き、4月には善俗堂と名付けられた。カヤ葺き18坪（60平方 m ）で、今の本通3丁目南の位置である。翌年には早くも村人の寄付を受けて校舎の新築をしている。

初めは生徒18人、先生は杉山順と渡邊丹助の2人だった。開拓使から補助金36円を受けたが、授業料は10銭と15銭の2種類とし、貧しい児童には書籍や文房具を貸し与え、また村内の寄付を利殖して基金とするなど、活発に学校維持を図っている。

またこの学問所は村の会議の場としても使われた。この寺子屋が白石小学校の始まりである。その善俗堂には5つの定めがあり、

- (1) 師弟の礼儀を大切にする
 - (2) 年上の人を敬い年下の人を憐れむ
 - (3) 学校で喧嘩しない
 - (4) 席の座り方は学問の進んでいる順
で年齢の順も考える
 - (5) 火の用心をし道具の乱雑がないよ
うにする
- というものだった。

明治7年に12番に移転

明治7年には善俗堂の生徒は31人となり、校舎が手狭になったので、白石

村12番地に校地100坪(330平方尺)を求めて、村事務所を併置して校舎を建て、「村学舎」と言った。今の中央2条3丁目藤光鋼材㈱事務所の位置にあたる。明治8年頃の授業内容は、午前8時登校、読書、10時算学、11時運筆、午後2時下校となっていた。

明治14年(1881)4月、校名が公立白石学校になり、15年に白石村の中心地の48番の現在地に校舎を新築し、建坪44坪(145.2平方メートル)となった。

さらに明治16年10月16日、村民の寄付486円あまりで35坪(115.5平方尺)の校舎を増築した。明治18年になると補助金は25円20銭に削られたが、この年の総経費296円は補助金以外に協議費(今のPTA会費)と授業料でまかなわれていた。

簡易小学校、尋常小学校、尋常高等小学校と改称

明治20年に白石簡易小学校が設置されて白石学校は自然廃止となり、進学希望者は創成小学校に通学した。明治23年4月には白石尋常小学校と改称した（白石村誌による。さっぽろ文庫46巻では29年4月）。明治29年4月、修業年限が4年となり、10月には職員室など45坪と奉安殿も建設した。

明治31年6月、2年間の補修科が認可された。32年9月、大谷地に分教場を設けた。33年、さらに45坪増築し、6月には上白石小学校ができて分かれていった。それでも校舎は手狭だった。

開拓民の子の学問所「善俗堂」は
白石小学校の前身となった





昭和23年頃の航空写真で見る白石小学校付近

34年4月、公立白石尋常高等小学校となり、高等科2年が設置されたが、35年4月には3年に、39年4月には4年になった。41年4月には義務教育が6年になり、それまでの高1・高2が小5・小6となった。

このころの児童の服装は、和服に下駄、わら靴などで、遠足にはおにぎりを腰につけて、起伏の多い村内を歩いたが、小川が流れ、畑の果樹にはサクランボがたわわで、虫も鳥も多く、自然が豊かだった。

戦時中は軍が一部を使用

大正時代は9年と13年に校舎の増築を行っているが、大正10年当時で校舎1,221平方メートル、敷地2万1,848平方メートル、付属地2万1,562平方メートルを所有していた。この農業実施地は明治36年度から事業を始め、大正5年度までに8,194平方メートルを開墾した。大正11年5月の開校50周年には、寄付金1,072円あまりで図書、理科器具、掛け図、標本、体操器具などを購入、子供たちを喜ばせた。

昭和8年、新校舎を建てるために、しばらく二部授業を強いられ、昭和9年6月、校舎の全面改築され、校地も1,300平方メートル増えた。戦局が厳しくなった昭和16年4月、公立白石国民学校と改称し、この年の5月と10月に10日間ほど

農繁休暇が実施された。

19年、軍部は北海道への敵軍上陸を想定して、白石村厚別に弾薬庫をひそかに造り、陸軍兵器補給廠を白石村南郷(今の白石区役所、南郷丘公園付近)に設置、陸軍鉄道司令部は本部を白石国民学校に置き、運動場や教室の一部を使用した。このため、高学年は教師の自宅で授業を受けるなど、授業場所の確保には苦労があった。

生徒急増で増築が間に合わず

終戦後の昭和22年4月、教育制度が改正され、公立白石小学校と改称された。

23年4月にPTAが創設された。

昭和25年に白石村が札幌市に編入した後、中央地区に母子住宅、本通に市

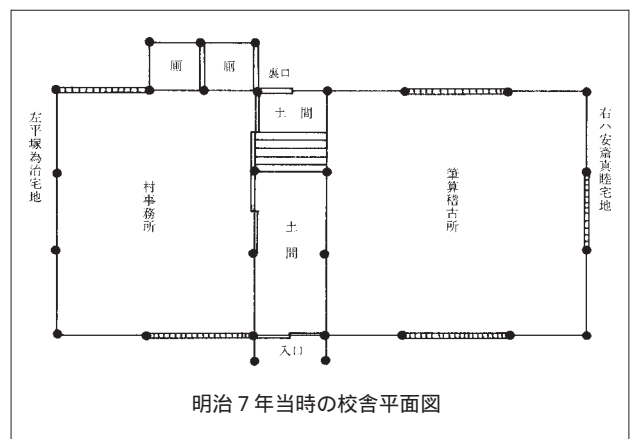
営住宅ができて、このころ地区の人口が急増し始めた。この年の7月に現在の校名である札幌市立白石小学校となった。

昭和26年12月、通学区域変更で東園小学校へ一部の児童が移っていった。その後の増築も焼け石に水の状態で、児童増により昭和33年

に本郷小学校を開校し、この年の10月と翌年9月に通学区域を変更した。ピーク時の昭和34年度には児童数2,082人、27学級となり、すし詰め授業や二部授業をしても追いつかず、音楽室や理科室など6教室は5年間普通教室に転用されていた。

38年1月南郷小学校に分かれ、39年1月本通小学校、40年1月東札幌小学校、41年北郷小学校、47年12月西白石小学校に分かれていった。昭和48年10月、百周年記念式典を挙行し、新校舎が完成した。

(塩見一釜)



明治7年当時の校舎平面図